

モリモンド修道院

モリモンドはアッピアーテグラッソの南側、緑の田園地帯に位置し、有名な大修道院のある中世からの小集落です。この修道院は 1136 年にフランスのディジン北にあるモリモンド修道院から来たシトー派修道士により建設されましたが、創立後すぐに、ミラノ南部地域の農業開墾事業の啓蒙推進活動の中心的役割を果たすようになりました。1400 年代中頃からモリモンド修道院は次第にその重要性を失っていきませんが、1561 年のサン・カルロ・ボッロメオや法王ピオ 4 世による介入後は活力を持ち直すようになりました。しかしながら、1799 年にナポレオン支配下のもと、当修道院は宗教法人廃止政策の対象となり、財産を没収されました。1952 年になってはじめて、修道士が再び住むようになりました。1182 年から 1292 年の間に建てられた修道院付属の教会は、聖母マリアに献上されたものです。教会構造は3つの身廊からなり、天井円蓋は円柱の上の尖頭迫持型アーチに支えられています。身廊と外陣の交差部には円蓋を覆う八角形の小外被が置かれています。教会内部の作品としては、木製の聖歌隊席、第一番目の円柱にある 14 世紀の聖水盤、幼いキリストを抱いたマリア像、第四径間にあるベルナルディーノ・ルイーニの作品である聖ベネデットと聖ベルナルド像などがとりわけ注目に値するものです。(ミラノ県の公式ホームページより)

修道院は、現役の修道院ですので、現在でも使えるように改修を重ねています。今でもあっちこっち直していました。従って、古い面影は余りありません。但し、博物館(閉まっていたがちらっと見えました)があり、改修前のものを展示しています。教会の中に入ると中庭まで通じていて、回廊に囲まれた中庭も見ることが出来ます。ここには修道院の模型も展示されていて、説明を聞かなくても良くわかるようになっています。但し、中庭に行くには2ユーロの寄付を払う必要があります。この修道院は高台に位置しているので、修道院から回りを見渡すとすばらしい田園風景が望めます。また、修道院の設備も見渡すこともできます。現役修道院ですので、まだ修道士が作業もしているものと思われるのですが、作業している姿は見る事が出来ませんでした。博物館の隣はカフェになっていて、ジェラートも売ってました。観光客目当てのもので、観光客は結構多いのだと思います。修道院の資料などの本も売ってましたが、修道院で作ったものの販売はしていません。

修道院の規模から考えると、パヴィア修道院の次にランクされますが、個人的な順位では、全体的な面からみると、パヴィア修道院、キアラヴァッレ修道院よりは落ちます。但し、キアラヴァッレ修道院よりは有名なので、より観光化されています。観光客も結構来ていました。

写真：

アッピアーテグラッソ



モリモンド修道院



モリモンドへはポルタジェノヴァからヴィジエーヴァノ駅の1つ前のアッピアーテグラツォ駅で降ります。アッピアーテグラツォはナヴィリオ運河が2つに分かれるところにある古い街で、お城と教会があります。古い街の雰囲気はありますが、ヴィジエーヴァノとは比較になりません。歩いて回っても1時間もあれば十分です。

モリモンドに行くバス(モッタ・ヴィスコンティ Motta Visconti 行きのバス)は駅前の停留所(道の反対側)から出ます。日曜日と祝日はバスがありませんので、行くなり土曜日です。1時間に1~2本あります。運転手にアッパツィア・モリモンドと言い、そこで切符を買えば連れて行ってくれます。バスは非常に空いていて、所要時間は約30分です。結構、田舎の中まで行きます。モリモンド修道院のある集落(といっても、そこだけ住宅街になっている)の停留所で降りると、歩いて1分で着きます。帰りも同じ停留所からアッピアーテグラツォ行きのバスに乗ります。辺鄙なところがありますが修道院は立派です。他の観光客がどうやって来たのかわかりません。多分、観光バスで来ているのだと思います。遊園地の遊覧電車みたいな乗物に乗ってきた観光客もいました。